

01. JUKI産機テクノロジー株式会社

気になるところから一つずつ社員の意見をまとめ、工場内の在り方を意識から改善

人材育成の一貫で参加した
工程改善トレーニングが
工場内改善のきっかけに



生産技術部 部長 佐藤 徹
JUKI産機テクノロジー株式会社
〒019-0793
横手市増田町増田字石神西70
TEL:0182-45-4341
FAX:0182-45-2016
<https://www.jdkc.co.jp>



HP



※左から松田課長、佐藤部長、渋谷主任

社員のキャリアアップを目的に

横手市増田町にあるJUKI産機テクノロジー株式会社は会社全体で550名を超える社員が勤務。各種メカトロニクス製品の設計開発および完成品製造を3つの拠点で行っている。産業用装置であるチップマウンター（プリント基板に電子部品を実装する装置）の設計・生産が主な事業内容だ。親会社であるJUKI株式会社の製品が最も大きなウェイトを占めているが、それ以外の取引もあり、チップマウンターの設計・生産のみならず、他の産業装置の部品加工や組み立ても行っている。令和4年に活性化センターから、工程改善トレーニングの案内があり、若手社員2名の参加が、今回の生産性向上への取組のきっかけとなった。生産技術部部長の佐藤徹さんは、若手社員のキャリアアップが目的だったと話す。

参加した渋谷裕樹さんは、その一環として愛知県の工場を見学。動線がいかに大切なのかを改めて感じ、勉強してきたことを社内に展開する際、動線の見直しを提案した。

若手社員たちが改善の中心を担う

渋谷さんからの提案を受け、佐藤部長は活性化センターの生産性向上事業を活用し、アドバイザーの派遣を依頼。アドバイザーは工場の中を確認して生産性向上に繋がるポイントを抽出し、提案型のアドバイスをを行った。実際の改善は、勤務する技術者たちの意見もヒアリングし、配慮しながら進めている。今後3年ほどかけて理想の形に変えていくため、ロードマップを現在作成しているという。また、今年度からは生産技術部に加え、生産現場のメンバーも工程改善トレーニングに参加。より多くの社員が先進的な工場を目の当たりにし、そのイメージを社内で共有することで、社内全体の意識を高めたい狙いだ。

「現在はトレーニングを通じて2つの部署が同じ意識をもって改善活動を実践中。今後は管理職だけでなく、一般社員が提案・主導できるような環境を作りたい。」と佐藤部長。若手社員の見識を上げたことが、新たな風を吹かせるきっかけとなっている。



生産技術部内で、改善の進め方についてのミーティングを行う。若手社員たちが中心となって動線の改善を進めている。



産業用機械・チップマウンターの設計・製造などを行っている。



本社工場では400名程度が勤務。今後はロボットや自動機を導入し、積極的な採用活動も引き続き行っていくという。